

## 早稲田大学 人間科学部 生物 講評

出題形式	マーク式
試験時間	60分
特徴・その他	大問構成は昨年同様5題であるが、一昨年から大幅に増えた解答(マーク)数が、40個から50個へとさらに増加した。時間のかかる計算問題はやや減少したが、教科書レベルを超える設問も引き続き出題された。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	遺伝情報の発現	ヒトの正常な遺伝情報の発現に関する設問。知識問題と考察問題で、解答(マーク)数は10個。基本的な出題であるが、問3はやや時間がかかる。	標準
II	神経・ホルモン	体内環境を維持するしくみに関する設問。知識問題と考察問題で解答(マーク)数は14個。一部教科書レベルを超える内容があり、難しい。標準的な内容は確実に得点したい。	やや難
III	遺伝	遺伝に関する設問。計算問題で解答(マーク)数は10個。標準的な内容であり、あまり時間をかけずに確実に得点したい。	標準
IV	個体群・種間関係	動物の個体群と種間関係に関する設問。知識問題、計算問題、考察問題で解答(マーク)数は8個。問5はやや難しい。	標準
V	バイオーーム	地球上のバイオーームに関する設問。知識問題で解答(マーク)数は8個。基本的な内容であるので、確実に得点したい。	標準

## 〔総合コメント〕

今年度も一部で教科書レベルを超える設問も出題されたが、大前提として、教科書レベルの内容は、生物名や物質名などの細かい知識も含めて必ず押さえておきたい。基本問題集や頻出問題を通して演習を多くこなすことが重要。